

広報編集委員が頑張っている人物やグループを紹介するページです

年間フリーチケットも販売しています！

年間1万人余りの鑑賞者が来訪し、今年3周年を迎えた「絵金蔵」。揺らぐ蠟燭の灯りに浮かぶ、おどろおどろの絵金屏風絵。あなたも絵金蔵の不思議な世界へ！

担当/野村土佐夫

赤岡 絵金蔵



絵金祭りと絵金蔵

その昔、旦那衆が祭りの宵に自宅の軒下へ絵金屏風を置き、百舩蠟燭を立てて、海からの邪気怨霊を払ったという赤岡町須留田八幡宮

の宵祭り。それを後世に残そうと、昭和52年「絵金祭り」と銘打ち、まちの商工会青年部を中心に立ち上がりました。

平成17年、個々に所有している23張りの屏風を火災から守り保存するために絵金蔵を建設、鑑賞用屏風として実物大のレプリカを展示しています。

蔵内は、闇中の提灯、揺らぐ蠟燭の灯りに動く絵、鮮血の飛び散る妖しい迫力、そして土佐風土記や数々の戯画などから絵師金蔵の本領に接する思いがいたします。

絵金蔵の運営

蔵の運営は、絵金蔵運営委員会 浜田義隆会長が行っており、この会と共に「蔵守」といわれる24人のボランティアが、交代で来客の誘導や接待、「やつゆ会金木屋」が絵金グッズを作り販売して

います。また、自主的に季節の花を生けてくれる人や、毎日「絵金蔵」の旗を立ててくれる人など、まちの人の温かさから運営が成り立っています。

蔵長の横田恵さんは、大学院で「絵金」を研究し、修士になられて絵金蔵へ。副蔵長の福原僚子さんは、同じ大学院の研究室出身で蔵長のアシスタント。お二人とも「絵金博士」です。



蔵長・横田さん(右) 副蔵長・福原さん(左)

4年目の決意

鑑賞だけの絵金蔵では運営が成り立ちません。今までは体制づくり。3年目を迎え、やつとやることが見えてきた」と横田さん。

「絵金を文化的に知ってもらうのはもちろんのこと、これからはまちづくりも盛り上げていきたい」と意欲的に話されました。

まちのみんなの絆を深め、元気なまちの情報発信源としての絵金蔵にこれから目が離せません。

編集後記

花にほどける人の心や花でつながる人の輪を感じる事ができる季節です。

「花もダンゴも！」楽しめる春のイベント情報に早くも広報係は浮かれ気味？(井)夜須から安芸までのサイクリングロードには、桜並木がいろんな所でみられます。自転車に乗って、春風と桜を満喫してみませんか？自転車は、サイクリングターミナルしおや宿でレンタルできます。

今年は、きらら桜まつりがパワーアップして開催されます。香我美駅前のチューリップも3月中楽しめるそうです。駅のプラットホームなど六場かも…。(N)

《広報へのメール》
kouhou@city.kochi-kanan.lg.jp
《香南市のホームページ》
http://www.city.kochi-kanan.lg.jp

「絵金蔵」

開館時間：午前9時～午後5時
(入館は4時半まで)
観覧料：大人500円/高校生300円
小・中学生150円(団体料金も有)
休館日：毎週月曜日・年末年始
(月曜が祝日の場合は翌火曜日)

問い合わせ 〒781-5310 赤岡町538
☎・FAX 57-7117
URL <http://www.ekingura.com/>

今回「やりゆうでえ」で絵金蔵に興味を持たれた人は3月9日(日)ライオンズクラブ結成30周年記念事業による無料観覧には是非、おいでください！

詳しくはP16の広告または絵金蔵へ問い合わせください